

週刊 **タバコの正体**

手術前には、まず

禁煙

- point1 喫煙は手術の合併症を増やし、傷の治りも悪くします。
- point2 禁煙はいつから始めても合併症を減らす効果があり、早いほど有効です。
- point3 禁煙は手術後も継続することで、病気の経過を改善します。
- point4 受動喫煙も手術経過に有害です。家族が手術なら禁煙しましょう。

公益社団法人 日本麻酔科学会

禁煙は、術前準備の第一歩

喫煙で肺炎などの合併症の危険性が増え、傷の治りも悪くなります。禁煙で術後の回復を早くしましょう。

NO SMOKING

- 1 喫煙で種々の周術期合併症は増加し、術後の回復が遅延する。
- 2 術前患者には喫煙の有無を確認し、喫煙者には禁煙の意義と目的を理解させ、禁煙を促す。
- 3 手術前のいつの時点からでも禁煙を開始することは意義がある。
- 4 手術直前の禁煙でも周術期合併症の増加はみられない。
- 5 可能な限り長期の術前禁煙は、周術期合併症をより減少させる。
- 6 受動喫煙も能動喫煙と同様に手術患者に悪影響を及ぼす。
- 7 敷地内禁煙などの無煙環境の確立は重要である。
- 8 禁煙指導は術前禁煙を促進し、術後の再喫煙率を低下させる。
- 9 周術期禁煙を契機とし、生涯の禁煙を目標にする。
- 10 周術期医療チームや外科系医師、禁煙外来など他科や他職種と協同して周術期禁煙を推進する。

日本麻酔科学会 HP から

手術前には、まず「禁煙」
「禁煙」は、術前準備の第一歩

この2枚のポスターは日本麻酔科学会が作成したもので、手術にあたって喫煙者は禁煙が必要であることを訴えています。その理由は手術後の合併症をなくすためです。

手術後の合併症とは、手術や検査などがもともなって起こる病気をさします。例えば、喫煙者は非喫煙者に比べ手術後に皮膚の感染症を併発する危険性が3倍、皮膚が壊死する危険性は7～9倍もあると言われているほか、肺機能の低下や血管の状態を悪化させるなど、全般的に術後の回復が遅れるそうです。

また手術の際、場合によって施される全身麻酔においては人工呼吸器が用いられます。このとき喫煙者は咳や痰がからみ呼吸が困難になる危険性が大きくなるそうです。だから全身麻酔が必要な手術の場合、4～6週前から禁煙しておくことが求められ、その期間禁煙できなければ手術を延期するそうです。喫煙者は手術するまでに1ヵ月以上も余計な時間があるわけです。

「タバコは一生やめるつもりはない」と決めていた人でもこのような状況になれば禁煙せざるをえないだろうと思います。タバコを吸い始めないことに越したことはありませんが、万一吸い始めてしまっても、少しでも早い時期に禁煙した方が良いに決まっています。

産業デザイン科 奥田 恭久

Zero Tobacco Project
In WAKO Since 2005